

乳幼児期

乳幼児期は、身体的・精神的・社会的に著しく成長発達し、哺乳から自分で食べるようになるまでの重要な時期である。この時期の口腔清掃は技術的な面よりも、習慣として楽しく日常生活に定着していくよう、周囲の人たちの働きかけが重要である。

乳児期：未萌出期^{みほうしゅつ}

一般的に6～7か月ころに下顎乳中切歯が生えてくる。5～6か月になると離乳食がはじまるが、歯のない時期はとくに歯の清掃を行わなくてもよい。

乳歯が早期に萌出した場合には、哺乳後に水でぬらしたガーゼや綿棒で歯をぬぐう程度にする。

乳児期：萌出期^{ほうしゅつ} (図 3-1)

生後6～7か月ころに下顎乳中切歯の萌出がはじまり、歯肉が膨らんでくると、盛んに口をプープーしているいろいろなものを口に運んで噛みつく行為が見られる。これらの行為は、口や前歯の鋭敏な感覚で物性や感触を記憶するためであり、安全であればいろいろなものをしゃぶらせたり噛ませたりして口の感覚を育てることが大切である(図 3-1b)。

指導のポイント

この時期は、磨くというより噛んだりしゃぶったりさせることで、歯ブラシに慣れさせることが大切である。歯ブラシなどを持たせ、口に入れたり噛んだりすることで、その感触に慣れさせておくと歯磨きへの導入がしやすくなる。歯が萌出してきたら、機嫌のよいときを選んで軽く数回程度こすって様子をみる。入浴後などに毎日実施して習慣化していくとよい。

乳児は、まだ体が安定していないことや、運動機能が未発達なため、幼児に持たせる歯ブラシは、喉に入り込まないようにストッパー付きのものや、グリップが円形で口の奥に入らないものなどを選択すると安全である。乳児用歯ブラシからはじめてもよいが、トレーニング用としてゴム製の歯ブラシ(図 3-1c)などもある。また、保護者磨き用の歯ブラシとしてヘッドが小さくグリップが長めにできたものもある。

1歳ころになると、上顎の乳前歯も生えはじめ、う蝕予防のための歯磨きがはじまる。

幼児期：1歳～1歳6か月 (図 3-2)

歩くのが徐々に上手になり、乳児から幼児へと変化していく。手づかみで食べることからスプーンで食べられるようにと少しずつ手と口の協調や感覚ができてくる。



a：萌出期の口腔



b：歯固め

c：乳児用・トレーニング用歯ブラシ
(ストッパー付き)

● 図 3-1 萌出期 ●



a：上唇小帯の肥厚



b：1歳～1歳6か月児の口腔



保護者磨き用

幼児用

c：乳幼児用歯ブラシ

● 図 3-2 1歳～1歳6か月 ●